

SAKAI
CITY
MEDICAL
CENTER

救急救命技術科

更新日：2025年10月



地方独立行政法人 堺市立病院機構

堺市立総合医療センター

SAKAI CITY MEDICAL CENTER

【 概要 】

平成3年に救急救命士法が制定されました。従来は、公設救急隊でしか行えなかった救急救命処置が、令和3年10月の法改正により病院内において患者が入院するまでの間でその対応が可能となりました。

当院でも救急医療の一員として令和4年に救急救命士を採用し、救急救命士が所属する部署として救急救命技術科が組織化されました。

◆ 科の方針

- 救急外来におけるタスクシフト推進により、医師や看護師の負担軽減と救急体制の強化
- 安全な施設間搬送(下り搬送)により地域の医療機関と連携して、病態にあった医療機関での入院と治療に貢献する。その結果、公立病院として地域の医療体制を守ること

◆ 現在の体制について

救急救命士4名(常勤 既卒3名・新卒1名)

勤務時間：平日8時30分～17時00分、年末年始や特定日（振替休日あり）

今後は救急救命士を増員し、休日や夜間帯にも常駐する予定

【 救急初療室 】

二次初療室



二次初療ベッドが4床、経過観察や結果待ちのバックベッドが4床、ウォークイン用の診察室が5部屋(うち感染症対応が2部屋)あります。

三次初療室



三次初療室には診察台が2台あり、救急専用CT室や救急専用ハイブリッド手術室が直結しています。

三次初療室の診察台は、上記CT室やハイブリッド手術室と同じものを使用しているため、患者の移動が不要であり安全な診療システムです。

【 救急救命士が使用する車両等 】



救急車(病院搬送車)

救急救命士が使用する車両は2台ありますが、
写真の救急車(ベース車:日産キャラバン)を主に使用しています。

救急車内に搭載している資機材



- ・モニター付き除細動器
- ・持ち運び式吸引器
- ・吸引物品
- ・携帯酸素ボンベ
- ・酸素マスク類
- ・バックバルブマスク
- ・聴診器
- ・体温計
- ・バックボード
- ・ネックカラー
- ・ペンライト
- ・携帯式心電図モニター
- ・感染防護具 など

搬送バック内には乳酸リンゲル液、薬剤(アドレナリン・50%ブドウ糖液)や静脈路確保に必要な物品が入っています。

【 業務内容 1 】

◆ 救急初療室

① 二次救急や三次救急の患者対応、診療の補助（小児含む）

- ・ バイタルサイン測定
- ・ Primary Surveyの評価
- ・ BLS（胸骨圧迫、BVMによる人工呼吸）
- ・ 吸引
- ・ 血糖測定
- ・ 12誘導心電図検査
- ・ 静脈路確保
- ・ 薬剤投与
- ・ walk-inトリアージ
- ・ 各処置介助
- ・ 各種検査まわり
- ・ 救急経時記録等の電子カルテ入力 など

② 救急隊からのホットライン応需

③ 備品管理、日常点検



【 業務内容 2 】

◆ 病院前活動

救急外来や病棟から病院救急車を用いた転院搬送

- ・ 申し送りの聴取と先方への伝達
- ・ 搬送中の患者状態の観察と救急救命処置の実施
- ・ 急変時の対応
- ・ 救急救命処置録の記載
- ・ 緊急走行の実施
- ・ データ集計業務
- ・ 車両の管理、点検 など

※ 重症患者の転院搬送では医師同乗で専門医療機関に搬送します。

国立循環器病研究センター、兵庫県災害医療センターなど

搬送症例

心室細動（ブルガダ症候群） # 重症熱傷 # 四肢轢断
QT延長症候群、トルサードポアンツのためECMO管理のうえ搬送 など

【 業務内容 3 】

◆ 救急医療に関連した各種コースの運営補助

当院主催ICLSコースやJPTECコースの
インストラクターを担当



◆ 災害医療業務

DMAT隊員としての研修や活動
院内外での災害訓練参加



◆ 学会参加、演題発表

日本臨床救急医学会総会・学術集会での発表

◆ その他

- ・ 救急救命士学生の実習指導
- ・ 災害時医療管理会議や委員会への参加
- ・ 病院内で救急救命士が活動するための委員会(ワーキンググループ)の参加

【 業務内容 4 】

- 救急外来での患者対応や病院救急車を用いた患者搬送が主な業務となります。
- ICLS・JPTECコースのインストラクターや、救急救命士学生の実習指導も担当しています。
- 業務拡大により、2025年度より救急隊からのホットライン応需やwalk-inトリアージの実施が開始されました。
- 順次DMAT隊員養成研修への参加をしています。

堺市を始めとする地域住民が適切な医療を受けることが出来るように、当院での救急医療のサポートや各医療機関への転院搬送に日々努めていきます。

【 臨床研修、教育体制について 】

◆ 臨床研修

救急医や看護局の協力により、救急外来だけでなく救命病棟での救急救命処置の実習を行っています。

また技術の維持目的として、救急外来にて静脈路確保を日々実施しております。

◆ 教育体制

年間スケジュールやチェックリストに沿った先輩とマンツーマンで実施
新卒の方や経験が浅い方でも、安心して成長できる環境があります。

【 学会発表 】

◆ 救急医協力のもと、2025年度より学会参加・演題発表を行っています。

◆ **参加した学会**

第28回日本臨床救急医学会総会・学術集会《2025年6月開催》

口頭での発表

【 その他 】

◆ 搬送実績

2025年度（4月～9月まで）	： 171件
2024年度	： 346件
2023年度	： 219件
2022年度	： 172件

◆ スタッフ所有資格など ※2025年10月現在

所持資格・受講コース名	該当者数
日本救急医学会認定 ICLSインストラクター	2
ALS大阪認定インストラクター	1
JPTEC協議会 JPTEC近畿インストラクター	2
日本臨床救急医学会 JTAS認定プロバイダー	2
日本災害医学会 MCLSプロバイダー	1
大阪DMAT隊員	1
AHA準拠 PEARSプロバイダー（小児救急の評価・認識・病態安定化）	1
脳卒中初期診療 ISLSプロバイダー	1
一般社団法人 日本救急救命士会 会員	1
一般社団法人 日本臨床救急医学会 会員	2